



月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

2022

7

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 6月月例句会	19
川柳吟行会「ぼ」	25
十和田たてがみ川柳会 5月句会報	29
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	24
Infomation	31～

カンテラ

むかし

今日は、6月13日。

川柳ステーション2022でどんな方々とお会いできるかとワクワクしています。

ねじまき句会のおかげはうれしいと、瀧村小奈生さん、二村典子さんによるリモートでの特別選抜講が果たしてうまく行くだろうか、なんてことを心配したりして少々胃が痛いのですが、ともかく大会に飢えている川柳患者のみなさんにスリリングな機会を提供したいと思っています。

それもこれも、新型コロナウイルス感染が再拡大してなければの話です。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

だからどうしたペンペン草の骨密度
お悔やみ欄雪崩のごとく桜散る
靴下の穴から見えている蛇足
天国がその辺にあるらしいのよ
魔女扱いしてるあんたは何なのさ
話し合う途中で泡になるなんて
冬の葦あなたはどんな星を見た
スニーカーは白じゃがいも発芽聖五月
こんなにもシャイだったのか閻魔さま
間違ったふりして風船を逃がす

坂本清乃
辻井洋子
三浦蒼鬼
吉田吹喜
葉 閑女
ひとり静
村上てる
吉見恵子
四ツ屋いずみ
齋藤泰子

齋藤泰子さん、ヘリウムガスを入れられ何十個も一緒

につながれて空中に浮いている販売用の「風船」が見えてきました。逃げたがっている風船があるとは思っててもみませんでした。「間違ったふりして」逃がしてやるとは粋な計らいです。1個だけ逃がしたのかな？

B群

おっさんがずんずら並ぶ兵馬備
今が消えるまで踊るしゃぼんだま
席を立ちそのまま蒸発してしまっ
縁あって背もたれのない椅子になる
信号の赤も昼寝が好きなのね
ソフィア寺院を全力疾走するキリン
本日のヌルヌルを塩もみにする
遺影ごと飛び込む向日葵の向こう
見せしめにされたんですね伸びたゴム
ずるいのは葉つきこかぶのまんやでしよう

石橋芳山
きさらぎ彼句音
安藤なみ
熊谷冬鼓
夏草ぶぶき
笹田隆志
芝岡かへもん
須藤しのすけ
ひとは
守田啓子

守田啓子さん、「葉つきこかぶ」がお好きですか？わが青森県の野辺地町が有名ですね。「野辺地葉つきこか

ぶ」は、平成24年に地域団体商標登録された全国的な地域ブランドですが、関係ないかもね。「こかぶ」ってかわいけれど、そのかわいさがあるさが「ずるい」ということは、啓子さんはあのかわいさと競い合っているってことですよ。勝てそうですか？

C群

おおざっぱな舟に馬一頭を乗せてきた
いないいないばあっ罪なき子らが消えてゆく
暗がりの火薬はぬれて匂わない
脱ぎ捨てる親 空蟬のうめき声
そうだ！ブルーチーズになろう

田久保亜蘭
柳本恵子
米山明日歌
旅 男
奈良一艘

田久保亜蘭さん、この世に「おおざっぱな舟」というものがあるのですか？今、船と言えば26人の客を乗せ知床半島沖に沈んだ観光船「KANZI」(カズワン)のことが思い浮かびませんが、それとは違いますよね。それから、「馬」としか書かれていませんが、引き締まった筋肉とスマートな体型を誇る競走馬サラブレッドでしょう

か。それとも、おとなしい性格で短い足で太い胴体の輓馬用ペルシロンでしょうか。はたまたかわいいポニーかな？道産子？亜蘭さんにはポニーがお似合いのようですが、舟から降りた「馬」に乗ってどこへ行くんでしょう。ところで亜蘭さん、馬に乗れるの？

柳本恵子さん、「いないいないばあっ」って手で顔を隠し「いないいない」と言った後突然「ばあ」と顔を出して幼児をあやす、あれですか。それとも、NHK Eテレの乳幼児向け番組のこと？「罪なき子」は、小杉健治の小説ですか？この句を読んでそんなことを思いましたが、もつとシンプルに考えた方がよさそうですね。一般市民や子供たちが突然殺されてしまうロシアによるウクライナ侵攻のこと、ってヨミは当たっていますか？（汗）

米山明日歌さん、この句の「火薬」って本物の「火薬」のこと？もしかしたら、明日歌さんご自身のことじゃないですか？「暗がり」とは新型コロナウイルス感染が拡大し、ロシアがウクライナを侵攻している今の世の中のことでしょうか？そんな暗がりの中、明日歌さんは濡れた火薬のように爆発もしないで匂いもさせないで、内にこ

もって爆発しそうになっている何かじつとをこらえている。違うかな。明日歌さんが爆発したらとんでもないことになりそうですね（汗）

旅男さんは、「親」を「脱ぎ捨て」「うめき声」をあげている「空蟬」だったのですか。分かりやすく言うくと、旅男さんはこれまで「親」に庇護されてきたけれど、次のステップへジャンプするため痛みをこらえて「親」を脱ぎ捨てた。残ったのは「旅男」そのものである抜け殻だけで、「うめき声」をあげ今立ち上がるうとしてる。そんな感じですかね…。

奈良一艘さん、何で「ブルーチーズになろう」としているんですか。「ブルーチーズ」って、青カビのチーズで、強い香りやピリリとした刺激がたまらないという人もいるけれど、「洗っていない上履きのニオイがする」と言って食べない人がいたりするあれでしょ？一艘さんはナマのまま「ピリリとした刺激」があるのですから、あとは「洗ってない上履きのニオイ」をつければいいんですよ？でも、「ブルーチーズ」になってそれからどうするつもりなんだろう。

おかしき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅6月月間賞

桃が欲しいか。イワンのバカ

奈良 一艘

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

スニーカーは白じやがいがいも発芽聖五月
束の間のスマレの青とシンパシー
忙中に閑あり 文庫本は二冊
悠々自適の時間は止まるリラ開く
アスパラを手折る いつかは消える世の

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

こんなにもシャイだったのか閻魔さま
3Dプリンターのハートだね君
炭酸で割りたいこれでもかの春
地に足がついてくる第二体操
ルーティンの綻び覗きこむハマる

先月号のお気に入り

三番街のマリーの入るケアハウス 宮井いずみ
五番街だけじゃなく三番街にもいたんですね、マリー。
引越し好きだったのかしら？

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

それどもとデザートに出す利尻島
少子高齢泥の舟にも乗るつもり
席を立ちそのまま蒸発してしまふ
定年のスパイ抜歯をしないまま
仁王像一体描いた 怖ろしい

先月号のお気に入り

図鑑にはない花ばかり気にかかる 葉閑女
わたしもです、花だけで終わらないのも気にかかります！

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

犬掻きで竜飛岬の向こう岸
なぜ俺に吠えるか犬の分際で
むらさぎに進んで狂いだしている
おっさんがずんずら並ぶ兵馬俑
金魚鉢わたしが触る世界観

先月号のお気に入り

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

裏切りの匂いをさせる桃の息
どっぷりと嵌って匂い出す岬
よそ行きの匂いになつて廊下
暗がりの火葉はぬれて匂わない
定型をくずして春がやかましい

先月号のお気に入り

正しいと信じて手首まで入れる ひとり静
正しい。信じる。手首。やさしい言葉なのに、すごく説
得力がありました。凄いです！

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

五七五 17年目の物語
飲んで食べ歌い旅した四人組
三等分上手くできたら別れましょう
上がれない二階茨線張られてる
和ぎの海一人で渡るラブリッジ

先月号のお気に入り

枯れそうな昔話に霧を吹く 辻井洋子
昔話にたっぷり水をやったら、根腐れしそう。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

輪ゴムには☆のマークの落とし前
溺れそう木食上人の笑窪
クリップに個性当たらない天気予報
取っ掛かりとして三本のあずきバー
ウエストとメジャーの間にある館こ

先月号のお気に入り

上村夢香【うへむらゆめか・山口県岩国市】

清方に逢う木漏れ日の美術館
取り敢えずお試し三酒勝利の日
両の眼を閉じればいつも母の笑み
真実を求める旅はまだ半ば
空き地には太陽光が居座つて

先月号のお気に入り

強面がニコツとすればホツとする 瀧尻善英
そうであつたあるあるー同感ですー！

きさらぎ彼句吾

【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

母だからって麻婆豆腐を漕がされる
月欠けて毛細血管まで闇夜
とんとんで良いとんとんが良いやじろべえ
今が消えるまで踊るしゃぼんだま
傾いてゆく友を覗いている昼の月

先月号のお気に入り
どうしたらそんなに春でいられるの
芝岡かんえもん
州花さんにお会いする度そうおもいます。

熊谷冬鼓

【くまがいとうこ・青森県青森市】

降り始めは静かな語り口でした
薄情と忘れっぽい紙一重
静電気の頻度因数分解中
縁あつて背もたれの無い椅子になる
雨乞いの途中で息切れしてしまう

先月号のお気に入り
さわるなきけん帯電中の左腕
四ツ屋いずみ
私は右足に帯電中です

笹田隆志

【ささただたかし・青森県青森市】

ソフィア寺院を全力疾走するキリン
百均の酒屋が好きな三四郎
春がきてレジェンドばかり目立つてる
風呂あがり生活臭がにじみでる
大橋を渡ってみればマンホール

先月号のお気に入り
ハチマキを腰に巻いてはいけません
奈良一艘
ボクは毎夜、腰に巻いたハチマキをほどいています

芝岡かんえもん

【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

カタツムリ夢の深さを変えながら
人型の過去をガラガラポンにする
またしても発酵し損なっている
ご破産で願ひましては六十九
本日のヌルヌルを塩もみにする

先月号のお気に入り
チケットを見せて入った繁華街
安藤なみ
皮肉が効いていて面白いですね。

斎藤泰子

【さいとうたいこ・秋田県大館市】

夜桜を今年も覗ずに何の春
間違ったふりして風船を逃がす
輪に馴染む 色をだんだん薄くして
雲動く愛から憎に変わるよに
古稀が来るザワザワと古稀が来る

先月号のお気に入り
バカボンのパパでいいのだ歩くのだ
達毘古
そうだ、そうだ、生きるのだ！・・・ほっとしました。

坂本清乃

【さかもときよの・青森県蓬田村】

新緑の香りに押されトロバス
呑み込んだ不満一気に葉桜よ
ぴかぴかの長靴足の踊り方
だからどうしたペンペン草の骨密度
いさぎよく鋏を置きなと昼の月

先月号のお気に入り

城後朱美

【じょうごあけみ・福岡県八女市】

山頂には一人贅沢な時間
大切な時間を友に奪われる
嗚呼そして自分勝手なお友だち
厭なこと厭だと言えぬお人好し
嗚呼みんな他人のせいになってしまう

先月号のお気に入り
猫ふんじやったからはじまる僕の春
柳本恵子
私のやりたい習い事の一つにピアノがある。いつになる
やら？

須藤しんのすけ

【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

エンターキー連打本日ご乱心
戦場の隅で大人になる鎖骨
三角関係テレビの人と逢う今夜
左手のドミノ右手のファソラファ
遺影ごと飛び込む向日葵の向こう

先月号のお気に入り
万愚節一つ覚えの燃料棒
葉閑女
「嘘の一つもつかなきややつてらんないツスよ！」って事
ありますよね。でも、やっぱり嘘は・・・ねえ(笑)

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

クレヨンの悩み十人十色です
闇の対峙研ぎ澄ませたという五感
家族旅行クルクル想い出廃ホテル
花嫁に化けた狐のツケが来る
負け惜しみ語りたくない語らせぬ

先月号のお気に入り
わたくしの油膜を消しにきた女 芝岡かんえもん
私なんぞは、もう油膜がいつばい付着しています。コー
ティングしてほしいものです。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

途中から狼男打つてくる
当然の報いに黄河貸してくれ
板チョコの先端側を迂回する
月は欠ける事をなぜか中止した
おおぎっぱな舟に馬一頭を乗せてきた

先月号のお気に入り

達毘古【たつひこ・富山県高岡市】

宇宙内地球特有発作 戦
ヒマワリやざわわわの風吹くぜ
逃げるならハイブリッドね昼の闇
Gimme shelter 古い生家を買戻す
頬杖太宰 腕組み安吾 繰り返す

先月号のお気に入り
母さんが泣いたのは大人の時間 旅男
私は寝たふりをしていました。泣き声の記憶は、？

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

お昼だよ津軽三味線が響く村
秘密基地見つけたのモール温泉
おんなつておわかれがすぎなのよ
依存症耳を塞いで目を閉じて
今の母を父はわかるのだろうか

先月号のお気に入り

旅 男【たびお・青森県五所川原市】

嘘に打たれし全身の耐性菌
脱ぎ捨てる親 空蟬のうめき声
ツン張って色を失うハイヒール
トンカチとカナテコふうふサビクサビ
深々に爪の灯火 夜々チロロ

先月号のお気に入り
みんな歪で 歪に気づかない Sin
誤送金来ないかなあ、でも使っちゃまう勇気ないなあ。歪
んでるなあ(黙沈)

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

曇天を弾けて抜ける落花生
お悔やみ欄雪崩のごとく桜散る
まだ知らぬ穴が有りそうご飯炊く
山椒ピリツ猫背に。パツと振りかける
まさかとは跳ねつ返りの藤の花

先月号のお気に入り
買い手は不明で売り手は知らんぶり 城後朱美
面白い、と言えは無責任でしょうっか。

土田雅子【つちたまさこ・青森県青森市】

沈丁花罪をあがない香り立つ
正論を言えば無花果笑い出す
夏爛漫ムレナデシコの絡み癖
小梅カリカリ野に咲く花を愛せない
素直になつて剪定をしてもらう

先月号のお気に入り
巻き舌のまま墜ちてゆく非常ベル 宮井いずみ
どんな場面？想像が掻き立てられます。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

すきつ歯に挟まっている今日の愚痴
信号の赤も昼寝が好きなのね
裏声を張り上げ歌う五十肩
髪を結う輪ゴムが好きなくれんぼ
私には犬の首輪が似合うのよ

先月号のお気に入り
火花が終わったら退室して下さい 小野五郎
後ろ髪引かれます。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

そうだ！ブルーチーズになるう
性感帯は藤の花だとおもいます
噛みつきそうな後期高齢親知らず
絵の中の微笑みさえも泡立った
鏡にはとてもデイープなボケ茄子の蒂

先月号のお気に入り
三番街のマリーの入るケアハウス 宮井いずみ
五番街のマリーはマブダチだけど三番街にも居たとは初耳。で、何ちゅうケアハウスなん？

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

飯粒が転がってゆく雨ががり
立ち止まるショートケーキの真ん中で
ロボットが動く座蒲団敷いたあと
アパートの空き部屋で視力回復
伯父の靴全体像が見えません

先月号のお気に入り
みんな歪で 歪に気づかない Sin
シンプルにして、納得です。歪がよかった。

ひとは【ひとは・青森県黒石市】

見せしめにされたんですね伸びたゴム
融通がきかないらしい柚子コシヨウ
爪欠けて秘密が少しバレそう
口紅が落ちて始まるガールズトーク
美容液たっぷり塗った嘘ばかり

先月号のお気に入り

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

バサバサと枝が切られてゆくニュース
正しいは正しくなくて正しくて
話し合う途中で泡になるなんて
まず句点それが大事と思うけど
早押しボタンを誰もが叩くから

先月号のお気に入り

まき（ハ）【まき（ハ）・青森県青森市】

梯子登る令和の先は見えぬまま
弱点がもひとつ増えてあら嵐
へらへらと結婚うきうきと離婚
袋小路だろうざわつくロゼワイン
退屈な日々にも慣れた水平線

先月号のお気に入り
いつからか弱気になった足の向き まみどり
足の向き以外は全部強気でいきましょ

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

宣誓 あれきり何も起こらない
生ぬるく時間ばかりが過ぎていく
穏やかな流れを望んではいたが
ため池を増やしてばかりいられない
水抜きかそれとも急流にしよう

先月号のお気に入り
こんな筈じゃなかった積立時間 旅男
過ぎてからわかる時間の大切さですね。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

仮の世の土産に苦労買っておく
永久保存しました夜明けのY理論
午前零時を過ぎたあたりの宇宙
靴下の穴から見えている蛇足
大義名分探しています四字熟語

先月号のお気に入り

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

ざくざくと貯める根と根を絡ませて
ひよりみで板状埴輪かわいい派
ふくみ笑い地熱発電ほどの罪
時空飛ぶドライトマトをお土産に
尾根筋にあるから目玉焼きだから

先月号のお気に入り
正しいと信じて手首まで入れる ひとり静
信じる者は救われると言っけれど。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

頼り無い脚だが私の友達よ
隠せると思うプーチン笑っちゃう
恍惚が僕の隣に来て座る
どう生きる消耗品になるもんか
ママが言う告るに息子苦笑い

先月号のお気に入り
家計簿が渴いてもやしを呼んでいる 坂本清乃
我が家の年金生活の実感そのものでした。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

意のままにならぬ人生終わるのはいつ
コロナ禍も3度目の春過ぎて夏
先見えぬ戦の行方闇の中
おーい雲今日はどこまで行くんだい
断捨離が遅々と進まぬ迷い道

先月号のお気に入り
日記書く〇×△取り混ぜて 辻井洋子
〇は少ないな〜

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

いないいないばあつ罪なき子らが消えてゆく
運命にする二度目の出会いなら
甘夏がだまって一つおちました
カルピスの白に心をゆるす夏
ひまわりの発芽小さな夏のはじまり

先月号のお気に入り
エンターキー叩いて海に会いに行く 熊谷冬鼓
エンターキーたく音が次の行動の原動力になりますね

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

僕の酒衣食住よりランク上
ワンカップ旅がとつても好きらしい
毎日が充実してる日曜日
新しい朝が来るから生きられる
新品のサンダル夏の海を待つ

先月号のお気に入り

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

はんなりと春風と言う影法師
電話なるシブキでかすむ老眼鏡
名場面幕引きうまい母でした
ゴメンネと言われ眼の奥の鬼が去る
冬の葦あなたはどんな星を見た

先月号のお気に入り

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

ずるいのは葉つきこかぶのまるさでしょう
空つなぐひまわり千個植えました
機内モード設定どんな時間
ツイートを埋め込め 伸びてくる脇芽
しとしとと寒い雨降る脇の下

先月号のお気に入り
「頑張るな」「頑張らないとだめなんだ」 鳴海賢治
だから鞭打ってウォーキングしてます。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

棚機は七日命日が九日
魔女扱いしてるあんたは何なのさ
出来ないと言わず解らないと逃げる
ピーピーと雲雀のように鳴いてみる
終章に白いリキュール添えておく

先月号のお気に入り

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

五頭身それが丈夫の黄金比
起き上がり小法師が来てからのいちにち
足りぬものあり余るもの十三夜
ゆれうごく乳房生き来しかたのまま
水になる野原に一步踏み出せば

先月号のお気に入り
夕焼けをおまけしますという本屋 むさし
夕焼けも朝焼けも勝手に頂いて帰ります

吉田吹喜「よしだふぶぎ・青森県弘前市」

ちくちくと眠い眠くい春の宵
寒かったり暑かったりと腹の虫
食欲不振 体にいいって言うから
天国がその辺にあるらしいのよ
草むしり そこに愛などありません

先月号の
お気に入り

お祝いに小指を一本たてましょう まみどり
想像したら笑ってしまいました。楽しいね

むさし「むさし・青森県蓬田村」

悪魔の数え方1プーチン2プーチン
恐竜のかかとの骨が出た背中
クレヨンで五月の風を塗ってゆく
ホッキョクグマの鼻の頭に止まるハエ
俺という一度限りの劇である

かなり木綿豆腐

おかじようき川柳社

6月例会

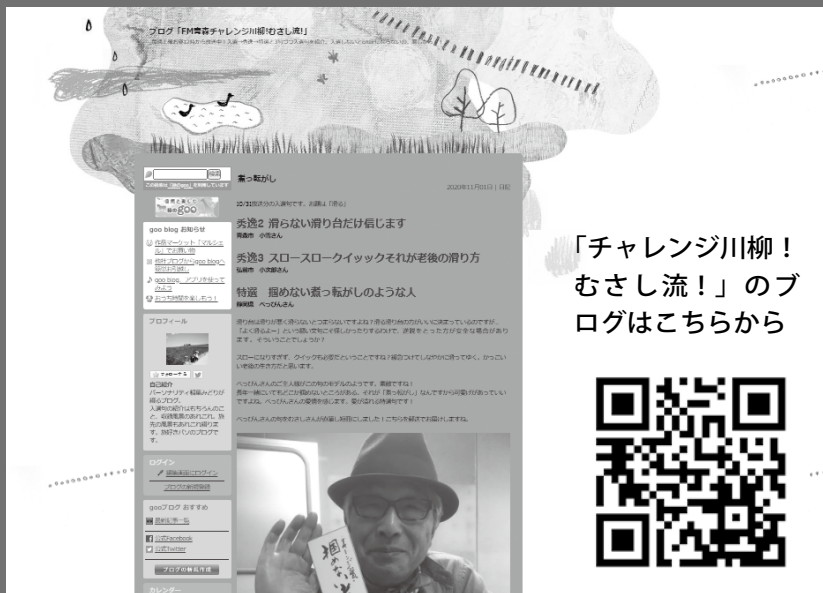
6月4日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(10名)

むさし・土田雅子・小野五郎・田中薫・葉閑女・奈良一艘・熊谷冬鼓・Sin・笹田隆志・守田啓子

▼投句者(28名)

岩根彰子・達毘古・安藤なみ・柳本恵子・芝岡かんえもん・米山明日歌・城後朱美・吉松澄子・旅男・吉田吹喜・夏草ふぶぎ・須藤しんのすけ・三浦蒼鬼・上村夢香・郷田みや・石橋芳山・宮井いずみ・村上あつこ・まみどり・斎藤泰子・きさらぎ彼句吾・鳴海賢治・まきこ・ひとは・村井規子・笹田かなえ・田久保亜蘭・坂本清乃



「チャレンジ川柳！
むさし流！」のブ
ログはこちらから



席題『ワカメ』

青森県蓬田村 むさし 選

【佳作】

海底のワカメ不明者思いやる
赤ちゃんワカメを掴みかけている
追善はワカメ尽しの七回忌
振り回されっぱなしで戻す塩ワカメ
熱湯で一変した芸人とワカメ
サザエさん一家で向かう人道回廊
却下する乾燥ワカメの嘘っぱち
乾燥若布の悲鳴を聞く夕暮れ
等身のワカメ引きずって夏に入る
ゆらゆらと月 ゆらゆらと光合成

【秀逸】

へらへらと昆布味する背骨の揺らぎ
お隣りが空き家になったワカメ汁
ワカメ・芽ひじき・希望・海鳴り・理髪店

【特選】

若布かむ仄かにヒトの死の匂い
若布って怖かったのか…。

土田雅子
小野五郎
葉 閑女
熊谷冬鼓
田 中 薫
S i n
熊谷冬鼓
土田雅子
小野五郎
田 中 薫
奈良一艘
熊谷冬鼓
奈良一艘
奈良一艘

席題『ワカメ』

青森県青森市 土田雅子 選

【佳作】

ワカメ・芽ひじき・希望・海鳴り・理髪店
それなのにわかめみたい揺れている
お隣りが空き家になったワカメ汁
左折するとワカメになってしまいうそう
追善はワカメ尽しの七回忌
振り回されっぱなしで戻す塩ワカメ
やわらかなヤングケアラだったワカメ
却下する乾燥ワカメの嘘っぱち
等身のワカメ引きずって夏に入る
土曜日の洗い晒しのワカメ着る

【秀逸】

へらへらと昆布味する背骨の揺らぎ
若布かむ仄かにヒトの死の匂い
ペンペン草もワカメも生えてくる背中

【特選】

屈辱のひとつとと思う 乾燥ワカメ
「屈辱」という視点に驚かされました。

奈良一艘
守田啓子
熊谷冬鼓
むさし
葉 閑女
熊谷冬鼓
守田啓子
熊谷冬鼓
小野五郎
小野五郎
小野五郎
奈良一艘
奈良一艘
むさし
守田啓子

宿題『やれやれ』

青森県青森市 小野五郎 選

【佳作】

やれやれが芋づる式にやってくる
やれやれと起きてやれやれと眠る
やれやれと見世物小屋は湾になり
両肩を羽毛布団に変えました
どうしてもアルミホイルになれない夜
永代供養してから風向きが変わる
出番だと勘違いしたぬらりひよん
忘れっぽくて優柔不断です かしこ
ほつとして強炭酸な空の青
Tシャツが黄ばんでしまうまでが夢
泣くほどのことかと揺れるサクランボ
未来って核戦争のことですか
小休止の先に険しい上り坂
帰るふりして帰らない細雪

熊谷冬鼓
土田雅子
守田啓子
郷田みや
奈良一艘
三浦蒼鬼
田 中 薫
熊谷冬鼓
S i n
吉松澄子
郷田みや
斎藤泰子
葉 閑女
田久保亜蘭

生存率はどうですか？赤は好きですか？
DNA 君だった そんなもんだよ
虫歯抜いて親知らず抜いて夏
有給を使い果たしてから夕陽
修正テープだらけになっていた背中
使えないボタンホールが二つある

【五客】

おじいさんと言われて海を眺めてる
やれやれと男らの裏側を拭く
蠶はぬけたし妄想癖あるし
座敷からやつとあなたを掃き出した
おやじギャグ連発 霧が立ちこめる

【人位】

やれやれの向こうはきつと花畑

【地位】

ささくれの指の先から関ヶ原

【天位】

四コマ目まで来たバガボンのパパと

人生の浮き沈みを感じさせる作り方。

S i n
田 中 薫
柳本恵子
三浦蒼鬼
むさし
須藤しんのすけ

むさし
芝岡かんえもん
奈良一艘
夏草ふぶき
葉 閑女
守田啓子
奈良一艘

きざらぎ彼句書

宿題『屋』

青森県青森市 熊谷冬鼓 選

【佳作】

ミサイルは屋根の裏からきたのです
 屋根裏から覗くお向かいのサスペンス
 戦闘機家に向いてはいけません
 屋号から御先祖さんの咳払い
 小半日恋人という骨董屋
 本日の○だけ売っている屋台
 猫缶キコキコクレマーを黙らせる
 妻という何でも屋さん開催中
 珈琲屋出のおだやかな川になり
 屋根を塗る小言がもれていかぬよに
 屋上で待つと真昼の宣戦布告
 おでん屋で夜の丸さを確かめる
 うすら笑いを浮かべて葬儀屋が走る
 腰の座った屋根になれたわ閉経後

鳴海賢治
 土田雅子
 坂本清乃
 ひとは
 守田啓子
 芝岡かんえもん
 ひとは
 まきこ
 守田啓子
 斎藤泰子
 村上あつこ
 むさし
 奈良一艘
 きさらぎ彼句吾

古本屋ふたつくぐつて梅雨に入る
 想い出ぼろぼろ空き家になってゆくんだね
 ミサイルもコロナも芝居小屋にある
 駄菓子屋に僕の元祖がひとりいる
 トタン屋で戦車作っているらしい
 屋根瓦載せてるためか肩がこる

土田雅子
 きさらぎ彼句吾
 三浦蒼鬼
 三浦蒼鬼
 小野五郎
 小野五郎

【五客】

きぶん屋の星占いがよく当たる
 酒のサカナばかり売ってる古本屋
 店屋物みたいな男ですが食べますか
 一昨日を食べてしまった古本屋
 安いよと俺はドンキで売られてた

夏草ふぶき
 むさし
 奈良一艘
 郷田みや
 芝岡かんえもん

【人位】

雨漏りし始めた母と行き昏れる

きさらぎ彼句吾

【地位】

屋根裏に隠されていた離岸流

宮井いずみ

【天位】

「戦争屋の戦争」虚しくはないか

奈良一艘

※ 終わりが見えてこないのは戦争屋だっ
 たからか。

宿題『自由詠』

青森県弘前市 奈良一艘 選

【佳作】

何をしてるんだか泡の貯金箱
 大統領の手からぞろぞろ志願兵
 逆立ちします 今週のハイライト
 加圧して出社 帰宅して減圧
 父さんの背中のはたぶん砂時計
 キヤベツだが本棚に居ちゃ駄目ですか
 占いのカードをめくるまで乙女
 それだけが頼りで川の中の杭
 不倫においても基本は大事です
 週三で顎のラインを誉められる
 カラスの羽根にカラスの骨が干からびる
 さくら貝のような鱗がまだ少し
 火の鳥が飛んだヒマワリ畑より
 地下壕掘るか宗教心彫るか

宮井いずみ
 笹田隆志
 鳴海賢治
 旅 男
 笹田隆志
 守田啓子
 城後朱美
 石橋芳山
 S i n
 須藤しんのすけ
 笹田かなえ
 きさらぎ彼句吾
 鳴海賢治
 旅 男

【五客】

嘘つきが五人占い師が二人
 雨の降る理由一身上の都合
 だから今魔除けの赤いとうがらし
 青空はなんもわかっちゃおらんのだ
 こちらがあらかじめ寝かせておいた叫びです

須藤しんのすけ
 守田啓子
 宮井いずみ
 芝岡かんえもん
 S i n

【人位】

前略の後はソーメンだけにする

郷田みや

【地位】

こしあんの夜は一人じゃ寒すぎる

米山明日歌

【天位】

先に逝く逝かない かなり木綿豆腐

守田啓子

※ 木綿豆腐の硬さ具合が絶妙に効いてい
 ます。

深艘心理

おろし金の現場を三つ持っている

小野五郎

(会員雑詠集 無人駅5月号より)

掲句はおかじょうき代表のむさしさんが、無人駅抄「カンテラ」のC群で取り上げていた作品。「おろし金の現場」の謎が謎を呼び、流石のむさし代表をも手こずらせた摩訶不思議で難解な句だ。

この句を紐解く鍵になるのはおそらく「おろし金」の比喩だろう。で、一艘流のおバカな深読みをすればこうだ。

おろし金とは、多分作者自身の肉体や神経、或いは頭脳、知識等をすりおろして搾り出さなければ達成出来ない現場という事なのではないだろうか。そんな現場を三つ持っているのだという。

作者の小野五郎さんとは句会後の飲み会で毎回のようにご一緒している仲なので、少なくともその三つの内二つの現場は存じ上げているつもりだ。

先ず一つ目の現場は川柳。五郎さんの川柳作りの特徴は普

通の人が多分思い付かないような独自の発想と着地。そこに至るまでにはかなりの頭腦的作業をすり重ねている筈だ。二つ目はもう一つの趣味だと伺っている登山。これは頭脳というよりは肉体をおろし金できるように駆使しなければ達成できない現場なのだろう。

問題は三つ目。川柳人の常として、なるべくプライベートには触れないという不文律があるのでよくは存じ上げないが、一艘流の妄想として考えるに「家庭内の現場」なのではないだろうか。いわゆる「亭主元気で留守が良い」から一転して、定年後の「毎日が日曜日」的な家庭内に於ける夫の位置問題…なのかも知れない。

ふっふっふ。これで全ての謎は解けた。妄想は妄想を産みそしてそれは更に川柳として昇華するのだ。それで良いのだ。うむ。

― 参加者募集 ―

川柳吟行会「ぽ」

課題『公園』

五月十一日、青森市内の青い海公園にて、コロナ禍で自粛されていた吟行会が再開された。参加者は六名。天候良好で、海はのたりのたりと鳥影を見せていた。集合するやいなや各自一時間の吟行が始まった。集合場所の喫茶室では、コメント欄付きの用紙に各一句ずつを三十分以内に清書する。その一句ごとに、皆がコメントを回し書きし、作者の元へ。これに作者が閃きを得た場合、句を訂正して仕上げ、てゆくという試みが面白く新鮮であった。やはり吟行は楽しかった。(恵子)

誘発させる仕掛けがうまい。「公園」が産みの場所であるという発想も程よい意外性があつて好き。【五郎】不可思議な光景が目に見え、【州花】どぎもを抜かれた句。そうか公園の心持良さは何に育つかわからない「たまご」を産みに行くせいだ。【柳本恵子】卵を産みに行ける公園の安心感がある。

【5点】特×1・佳×3

公園にはネコがいまませんように 雨 笹田かなえ

【朱美】ずぶぬれになった子猫を抱き抱えて帰宅した。あのころ少年だった。母にも言えず、秘密基地でしばらく飼った。【写生】雨の日は猫が捨てられることが多いのだろうか。ドラマとしてはありがただが猫好きな当事者にとっては切実なことだろう。【隆志】公園で寝そべる猫をみかけると決まって雨です。【州花】ネコが嫌いな訳ではないが。

【7点】特×3・佳×1

公園にたまにたまごを産みに行く 守田啓子

【写生】「たまたまを産みに行く」と見間違えた。錯覚を

【4点】特×2

当局の求めで咲いているスミレソウ 小野五郎

【達昆古】某県のチューリップもそうだが、近頃の花が人工的に見えるのは私だけ？ スミレソウも自然に咲いて欲しい。【冬鼓】公園の片隅のスミレからロシア国民に思いを馳せたと読んだ。スミレたちはプロパガンダの洗脳から一日も早く目覚めて欲しい。

【4点】特×1・佳×2

ごろんと流木 ここで生まれた貌をして 熊谷冬鼓

【こあき】同じ流木を見たのに。こんな発想の句ができるのですね。流れつくところがどこであつても、ここが私の生きる場所。【いずみ】「ここで生まれた貌」が流木の存在感をうまく表現している。【隆志】「ごろんと流木」がいい。古里への想いです。

公園に打ち寄せて来るアゾフ海 小野五郎

【さち】毎日のニュースに思考も侵略されています。海への向いの釜臥山のレーダーや大湊の海軍基地を身近に感じました。打ち寄せて来ましたね。【いずみ】先日ロシア艦隊が津軽海峡を通過した。アゾフ海と繋がっているのだ。【かなえ】大義無き戦争の、一日も早い終結を願うばかり。

の離岸流の対比がすごいですね。【こあき】公園のベンチで語られるのは、幸せな話ばかりではないのでしょうか。

キーウには林檎の花が咲くだろうか 滋野さち

【吉見恵子】戦争一色のキーウに対し、林檎の白い花は対照的で一服の清涼感がある。林檎の花のあるなしを尋ねているが、一時の安らぎはあるのだろうかと察じているようだ。【啓子】今は無理。だけどいつかキーウに林檎の花を咲かせたい。

ズミの花咲きみだれてるネプタ小屋 笹田隆志

【いずみ】今年はコロナ以後初めてねぶた祭が行われる。毎年青い海公園にできるねぶた制作小屋がズミの花に囲まれているのは嬉しいかぎり。【文音】ズミとネプタの片仮名表記が好きです。今年こそはネプタの跳人で咲き乱れて欲しい。

【2点】特×1

おにぎりをほめられたのよ海の公園 吉田州花

【文音】簡単な言葉でさりげなく褒められるという幸せな信実のつぶやきに感じ入りました。

公園の箒になったお父さん 岩根彰子

【啓子】きつとあちらで「私が箒になります」と志願して箒になったらどうお父さん。そろそろゆつくり休んでください。発想が面白くそして切ない。【吉見恵子】「箒になったお父さん」は一見極端のようであるが、長年ボランティアなどで活躍し続けていることを表現しているんだろう。【五郎】取り合わせに戸惑いながらも立ち止まってしまおう。

【3点】特×1・佳×1

愚者ぐしやと公園に描く戦車痕 月波与生

【彰子】プーチンは幾つ戦車痕を残せば人科に戻るのだろうか。地球の悼みに触れさせたい。【五郎】複雑系の構造にひきつけられる。

バスで行く海の公園アイスの日 福田文音

【かなえ】しみじみと、平凡で平和な日々の有難さがある。「海の公園」と「アイスの日」の取り合わせがピッタリ。【こあき】さわやかな初夏の陽射しと風が感じられて好きです。

ベンチから生まれる黒い離岸流 小野五郎

【柳本恵子】ベンチという動かないものから激しい動き

公園に遊ぶ魂マツユキソウ 笹田かなえ

【規子】待雪草とはエデンの園からアダムとイヴが追われた時イヴを慰めるために天使が雪を変化させて咲かせた花。もっと生きたくても生きられなかったこともたちの魂。どうか癒されて公園で遊んでほしい。

松ぼっくりの砂に埋もれていた記憶 熊谷冬鼓

【隆志】松ぼっくりは作者でしょう、浜公園の砂に埋もれていた記憶がとても気になります。

【2点】佳×2

停戦決裂今日は海軍カレーの日 滋野さち

【冬鼓】遠い国の戦争に心痛めながらも銃声の届かぬ場所にいる作者。下句が絶妙。【州花】ウクライナのニュースは日常のなげなさを幸せにする。

山下公園に迷い箸された 岩根彰子

【かなえ】氷川丸がふつと浮かんで。山下公園に参りました。【冬鼓】公園が迷い箸したような作り方が面白い。

どの道も海よりつづくホモ・サピエンス 吉見恵子

【写生】この句のどこが「公園」なのか。きつと「公園」なのだろう。わからないけど面白いので。【彰子】宮殿に住もうと公園の隅に住もうとやがては海に還る。

藤棚の下であっさりあやまろう 吉田州花

【啓子】ここなら素直になれそう。許してもらえそう。【さち】藤の下ならさらっと謝れそうな気がします。

手をつなぐ 代々木公園だったから 笹田かなえ

【朱美】いいな、また恋をしたくなるような句【さち】特に意味は無いけど、代々木公園が懐かしくていい。

〔下点〕佳×1

こんな風に走れたらなんと眺めてた 村井規子

公園が託児所反対は出来ぬ 城後朱美

公園の合歓の記憶が眠らない 吉田州花

ロンド・ア・カブリッチョ保育園児の散歩 宮井いずみ

子等の声遊具も嬉そうに聞く 村井規子

十和田たてがみ川柳会五月句会

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・佐藤まさあき・瀧尻善英・中村英三・福田芳記・村上昌子・高田幸柳
○投句者 斉藤蛙井・城後朱美・磯島雅男

■席題 『ケロリ』 中村 英三 選

【平抜き】

失言もケロリと知らぬ顔をされ 高田 幸柳

妻かんむりケロリと忘れた誕生日 佐藤まさあき

泣いて泣いて明日にはケロリ立ち上がる 瀧尻 善英

不機嫌もご馳走前にどこへやら 高田 幸柳

誤振り込み金額無くしケロリ顔 福田 芳記

買い物でケロリ忘れ電話する 久保あざみ

真似できぬ皮肉をケロリ言う女 高田 幸柳

泣いた子がケロリと食べた綿あめを 久保あざみ

【秀逸】

失敗もケロリと受ける名演技 木村奈生美

失敗はケロリと忘れ明日がある 瀧尻 善英

老人になった公園散歩する 城後朱美

「赤い糸」置き去りにした浜公園 笹田隆志

公園に父の胡坐と母の膝 守田啓子

若犬にじゃれつかれても秋田犬 宮井いずみ



【特選】

健脚者十和田湖ウォーク完歩する 福田 芳記

■席題 『ケロリ』 瀧尻 善英 選
【平抜き】

健脚者十和田湖ウォーク完歩する 福田 芳記

今もなおケロリとできずメール消す 久保あざみ

真似できぬ皮肉をケロリ言う女 高田 幸柳

失言もケロリと知らぬ顔をされ 高田 幸柳

キッチンで味見のタマの顔涼し 木村奈生美

熱下がり朝飯2杯平らげる 村上 昌子

喉元を過ぎて涼しい顔でいる 佐藤まさあき

喉元を過ぎて涼しい顔でいる 佐藤まさあき

【秀逸】

約束をケロリと忘れすまし顔 中村 英三

不機嫌もご馳走前にどこへやら 高田 幸柳

【特選】

誤振り込み金額無くしケロリ顔 福田 芳記

■宿題 『喧嘩』

高田 勝幸 選

【平抜き】

口喧嘩孫の前では中断し
夫婦ケンカが薬味となりました
昼食にそうめん出すとまたこれか
なんだとはなんなの応酬喧嘩だよ
夕焼けて見れば兄弟喧嘩なし
自己チューも喧嘩もムード暗くする
喧嘩する方法知らぬ一人っ子
プーチンの売った喧嘩を貰う欧州
世渡りへ押さえたままの喧嘩腰
喧嘩でもしないと会話ない夫婦
言い勝つて一人寝になる寂しい夜
食い違い解ければまるく済むケンカ

【秀逸】

追い出した息子をずっと待っている
犬猿が呉越同舟して夢へ

【特選】

挑発をしながら聴いている本音

中村 英三
斉藤 蛙井
久保あざみ
福田 芳記
磯島 雅男
木村奈生美
城後 朱美
福田 芳記
木村奈生美
城後 朱美
瀧尻 善英
村上 昌子
村上 昌子
瀧尻 善英
村上 昌子
瀧尻 善英

■宿題 『ゲーム』

木村奈生美 選

【平抜き】

アラフォーの恋愛ゲーム押し強く
テレビゲーム子どもの時間奪い取る
ゲーム機にいちやもん付ける麻痺の指
戦争はゲームではない また破壊
泣き笑いゲームセットに飾る花
オンラインカジノで消えた泡銭
プーチンよゲームじゃないよ戦争は
人生のゲームに勝ったけど孤独
成長を蝕んでいるゲーム漬け
耳鳴りに悩む人生ゲームまで
賞金をゲームで稼ぐEスポーツ
椅子取りに疲れて誰も居なくなる

【秀逸】

人生は所詮ゲームと思っても
陣地取り戻すゲームの戦火熱

【特選】

ゲームする暇があったらスクワット

高田 幸柳
福田 芳記
磯島 雅男
瀧尻 善英
村上 昌子
中村 英三
福田 芳記
瀧尻 善英
佐藤まさあき
磯島 雅男
中村 英三
瀧尻 善英
齊藤 蛙井
磯島 雅男
城後 朱美

■宿題 『傑作』

互選

- ①ゲルニカとムンク重ねるウクライナ 佐藤まさあき
- ①瞑想の釈迦は命を削ぐ悟り 高田 幸柳
- ①駄作だが活字になると光り出す 中村 英三
- ②名曲に触れてあしたへリフレッシュ 瀧尻 善英
- ③この出会い傑作だった悔いはない 村上 昌子
- ④敗戦がくれた傑作 九条だ 齊藤 蛙井
- ④見て聞いてポンとひざ打つ大賞句 福田 芳記

◆十和田たてがみ川柳会7月句会案内◆

【時】7月16日(土) 午前10時から 【所】十和田労働
福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『酒』佐藤まさあき選
／『晒す』村上昌子選 【互選】(一句詠)『錯覚』当日
出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】一題(三
句詠・共選)／選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名
【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸
柳宛

Infomation

□ 2022.07.31 ✕ 2022 年度川柳研究誌上大会

【課題】(各二句)二人選「裏」木本朱夏選(川柳塔社)・上田健太選(川柳研究社) / 「剥がす」荒川八洲雄選(中日川柳会)・渡辺梢選(川柳研究社) / 「やきもき」中島和子選(東京番傘川柳社)・片倉卯月選(川柳研究社) / 「大らか」野沢省悟(川柳触光舎)・安藤紀楽選(川柳研究社) 【投句方法】応募用紙(コピー可)または便箋へ一行置きに。住所、氏名、電話番号を明記、一人一口迄。【投句先】〒353-0006 埼玉県志木市館2-3-6-1403 のべふゆは方 川柳研究誌上大会事務局 【投句料】千円(切手不可) 発表誌呈【締切】2022年7月31日(当日消印有効) 【問合せ】電話048-472-8885(川柳研究誌上大会事務局) 【賞】合点五位まで楯・三十位まで記念品(同点は着到順) 【発表】「川柳研究」誌10月号 【主催】川柳研究社

■会費拝受【5月受付分】

石橋芳山（島根県）/ 夏草ふぶき（青森市）/ 芝岡かんえもん（神奈川県）/ 高田幸柳（十和田市）

■おかじょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

終着駅 Sin

◆「川柳ステーション2022」も無事終えることができた。社会的にはアフターコロナへシフトしている時期とはいえ、感染者もいないわけではない状況で、30名を超える参加者がいてくれることに本当に感謝している。また、今回、ねじまき句会とのコラボ企画として、リモート出演してくれた特別選のなかはらいいごさん、瀧村小奈生さん、二村典子さんにも、本当に感謝したい。このリモート出演は新型コロナウイルスが流行しなければ、日本においてはまだまだ根付かない文化であったと思う。コロナ禍で様々なものがストップして、消滅したのも沢山あるが、こういう新しい文化が生まれたことを最大限に活用すること、アフターコロナにおいての責務なんだと思う◆その特別選。川柳ステーション不参加でも、おかじょうき川柳社非会員でも自由に投句できるとあって、全国から沢山の投句をいただいた。年齢層が高いと言われる川柳界でもオンライン投句がこれほど

有効だということは、今後いろいろな仕掛けが可能であることを示唆してくれた。コロナ前とコロナ後では、これまでのやり方や概念等が覆っているという、脳内のアップデートが必要になるんだろうと思っている◆さて、ステーション当日のディスカッションは3人も特選句がバラバラであったこともホッとしたところでもある（笑）ディスカッションでは、その選者が特選に選んだ作品のアピールや、なんで選ばなかったかの応酬がとても見ごたえのある楽しい時間だった。特にいいごさんの特選は他の二人の選外ということもあり、どういうやりとりが起こるのかが個人的にとても楽しみであった。まあ、その内容は次月号で掲載されるので、楽しみにしていたくとして◆と、さも、川柳ステーション後に書いているようだが、この原稿は川柳ステーションがまだ開催されていない日に書いている（笑）果たしてこの通りいけるのだろうか…不安でしかない（笑）◆Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2022.07.13 「川柳吟行会 ぼ」7月句会

【投句締切】7月13日（第2水曜日）【題・投句数】『川』3句【合評会】7月20日（第3水曜日）アウガ5階で14:30～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方ならおかじょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句（9月号分）

【締切】7月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】9/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2022.08.06 おかじょうき川柳社本社8月句会

【時】8月6日（土）午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】8月5日（金）15時【宿題】（各題3句詠）『ゆらゆら』/『油』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句「楽器」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com（守田啓子）■句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2022.08.10 「川柳吟行会 ぼ」8月句会

【投句締切】8月10日（第2水曜日）【題・投句数】『火』3句【合評会】8月17日（第3水曜日）アウガ5階で14:30～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方ならおかじょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。



おかじょうき川柳社：誌上旬会

- OKAJOKI ZERO LINE -
0 番線

課題と選者 (2句詠・共選)

題：『動』

7/31 〆切

選者

ひとり静 (奈良県)

むさし (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/toku/0line.html> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、**守田啓子宛**にメール送信してください。＜送信先アドレス：moriko@okajoki.com＞

投句料 (※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円 (発表誌呈) *発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。